

山口県の地質物語 - 13 : 玖珂層群とその広がり

岩国市中東部から周南市北東部に至る東西約 27 km・南北約 16 km の範囲に分布する^{さいせつ}砕屑岩・チャート層を**玖珂層群**（小島・岡村，1952）という。その北側には、野谷川断層（石垣—玖珂構造線）を介して周防変成岩が広がり、南側では、岩国断層を境に領家変成岩に漸移している。

1950 年代には、本層群は石灰岩中の紡錘虫化石によって、古生代のペルム紀層とみなされた。その後 1961 年に後期トリアス紀を示すモノチス化石が発見され、さらに 1970 年代後半以降にはペルム紀からジュラ紀にかけてのコノドントや放散虫の微化石

（図 1）があい次いで発見され、1990 年代には古期の^{がんかい}外来岩塊をオリストリスとして含むジュラ紀付加体であることが明らかにされた（高見ほか，1990，1993）。山口県の地質概要図では“中生代付加型堆積岩”と呼んでいる（本シリーズ 6 参照）。

構成岩石は、泥質岩と層状チャートを主とし、砂岩、石灰岩、緑色岩からなる。泥質岩には、泥岩のほかに礫質泥岩と珪質泥岩を特徴的に伴う。**礫質泥岩**（図 2）は分級の悪い黒色泥岩を基質とし、さまざまな形と大きさの砂岩、層状チャート、珪質泥岩などの礫および岩体を含む。**層状チャート**（図 3）は数 cm の珪質部と数 mm の泥質部の有律互層からなる。珪質部のチャートは、珪質な殻をもつ放散虫の遺骸^{いがい}からなり、その堆積速度は 1000 年に数 mm という非常に遅いものである。岩相特性、微化石年代、K-Ar 年代などに基づいて、本層群は南から北へ付加年代の若い順に、ユニット I, II, III に区分されている。

本層群は**美濃一丹波帯**の西端部にあたり、北東部へは鹿足層群や角谷層^{つのだに}などを経て、岐阜県や長野県にまで広がっている。

（文責：西村祐二郎）

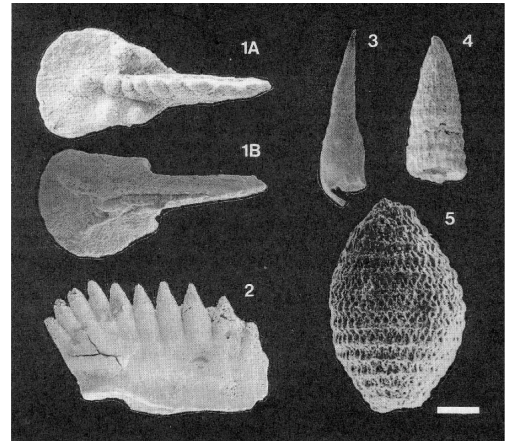


図 1 微化石の電子顕微鏡写真（スケール：0.1 mm，西村・磯崎，1988）

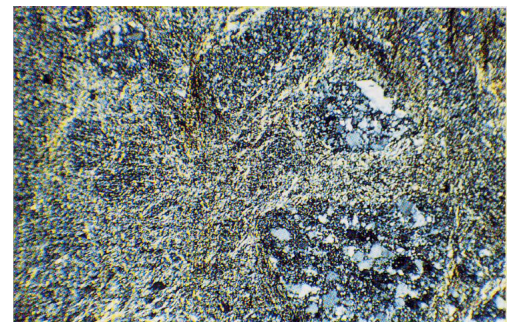


図 2 礫質泥岩と顕微鏡写真

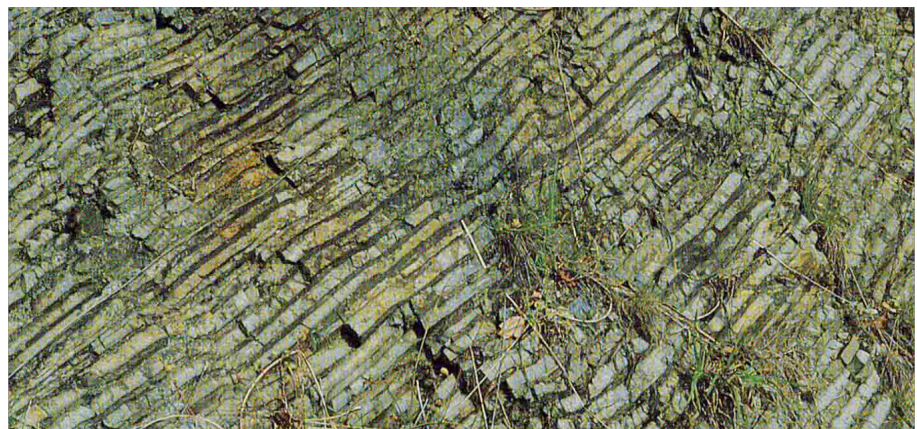


図 3 層状チャートのリズミカルな層理（図 2～3：山口県の岩石図鑑）